

大阪 湾岸流出で入荷減も様子見姿勢崩さず

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況は保合い商状。湾岸優位な価格展開が電炉入荷に影響を及ぼしており、ヘビー類についてはタイト化へ振れた状態にあるものの、他の電炉筋に値動きが一切見られないほか、国内外ともに段階的に上昇へ向かいづらくなるなかで、在庫レベルにも余力を抱えるため、様子見姿勢を維持する動きにあるようだ。同地区電炉のH2実勢値は4万9000~4万9500円(一部上値5万円)、新断バラ同5万500~5万1500円、鋼グライ粉バラ同4万4500~4万5000円見当で推移。

東京製鉄全拠点による13日からの値上げを受け、地区電炉筋は全社が据え置き対応となっているのとは対照的に、湾岸筋が同日から買値を引き上げたことで、湾岸優位な価格展開となっている。このため、先週末からは湾岸向け流出が目立つようになり、これに合わ

せて、電炉入荷もヘビー類を中心に落ち込みが聞かれる。湾岸では一部で価格の引き下げが見られるが、それでも検収面などを含めれば、湾岸有利には変わらず、電炉側によっては継続的な入荷減が在庫面にも影響を与えかねないことで、「H2以下のヘビーについては価格対応の可能性が残っており、強含みへ振れているのでは」(ヤード業者筋)との声が聞かれる。

ただ、他の電炉筋に値動きがなく、今すぐ手当てを急ぐほどの在庫レベルにもないため、先行しての値上げについては消極的な姿勢を保ったままだ。トルコ向け輸出価格が調整局面を迎えており、アジア向け輸出商談は停滞ムードが強まりそうなため、「湾岸の受け入れが終了すれば、最終的にメーカーへ還流してくることが予想されるだけに、上値は重たそう」(商社)という。

荒川(鹿児島)、折り畳み式ごみステーションを寄贈 ~地域のきれいなまちづくりに貢献~

総合リサイクル企業・荒川グループの荒川(本社=鹿児島市、荒川直文社長)と鹿児島県の古紙取扱い事業者で構成する鹿児島製紙原料直納協同組合(鹿児島市、荒川直文代表理事)は、鹿児島市衛生組織連合会(鹿児島市、米倉賢蔵会長)に折り畳み式ごみステーションを10基寄贈した。昨年12月23日に鹿児島市役所で目録の贈呈式が行われ、荒川社長らが出席した。

寄贈したのはワンタッチ開閉式ごみステーション「クーくん」。家庭ごみ収集場の環境美化を目的とした折り畳み式のごみ収集ボックスで、カラスなどの被害を防ぎ、収集日以外は省スペースに収納して通行の妨げにならず見た目も良く、設置や開閉も簡単で耐久性も高いと評判を得ている。

贈呈式で荒川社長は「(ごみステーション設置で)分別ルールの順守と周辺における衛生環境の整備充実

に期待している。今後もしもリサイクル企業として鹿児島市のきれいなまちづくりに貢献したい」と述べた。

荒川グループは鉄・非鉄スクラップをはじめ、一般・産業廃棄物、家電リサイクル、自動車リサイクル、廃プラ、RPF製造など幅広い商材を扱う総合リサイクル企業。関連会社に荒川の他、古紙やびんを取り扱う荒川商店(鹿児島市)やアルミ再生塊製造のサツマアルミリサイクル工業(同市)、自動車リサイクルを展開する荒川オートリサイクル(同市)、霧島リサイクル(霧島市)、奄美リサイクル(奄美市)などがある。



贈呈式で感謝状を受け取る荒川社長(中央)

山原商会、設備増強で効率化・機動力向上

(山口) 金属スクラップディーラーの山原商会(本社=山口県宇部市、山原一紀社長)はこのほど、油圧ショベルでグラブ仕様(日立建機製)とマグネット仕様(住友建機製)を導入し、スクラップの積み降ろし作業の効率化を図った。また併せて運搬車両の更新も行い、新たに7トンのローダークレーン車(車両=いすゞ自動車製、クレーン=HIAB社製)を導入、機動力の向上にも注力している。

同社は鉄スクラップをメインに、月間で約5,000ト(代納含み)を扱う。ヤードは効率化を追求し、徹底的に整備されている。

高い処理能力を維持するため、重機などの増強を毎年欠かさず行っており、その向上心の高さは同社の特長に挙げられる。山原社長は「設備投資は社員の安全も考慮している。これからも事故防止に努め、リサイクル事業を進めていきたい」と話す。



新しくした重機と車両